

一般社団法人日本薬学生連盟 2026年度執行部立候補申請書

立候補者氏名	馬越 春莉
立候補する役職	国際渉外統括理事
大学/学部/学科	東京薬科大学 / 薬学部 / 医療薬学科
学年	4年
所属	国際渉外部、交換留学委員会、薬学総合委員会 等
日本薬学生連盟での活動経歴	2022年 外務統括補佐 2023年 副会長 / APPS in Yogyakarta OD 2024年 会長 / 薬学総合委員長 / APPS in Thailand OD / World Congress in Korea OD 2025年 会長 / 年会部会長 / World Congress in Kenya OD
立候補動機	私は日本薬学生連盟で、多くの方々に支援していただきながら、様々な挑戦をしてきました。特に、国際的活動については、自分の質問や意見を企画や会議で伝えることさえ敷居が高く、過去の国際渉外統括理事や交換留学委員長、APROのメンバーから事前に多くの支援をいただき、準備を徹底した後に活動を行ってきました。 しかし、どれも個人的な関係性に留まっているのが現状です。次年度は、構築してきた関係性を活かし、さらに広げ、国際渉外部スタッフをはじめとする会員とともに挑戦し、学びを深められる環境を作っていきたいと考えたため、本役職に立候補いたします。
問題点と改善案	1. 企画参加人数の低迷 現在、国際系の各企画において、日本からの参加人数は5名程度に留まります。参加人数の増加に加え、参加リピート率を向上させるため、下記の施策を講じます。 a. 1on1ミーティングでのニーズ・参加ハードル調査 部門内のスタッフ一人ひとりに向かい、部門でやりたいこと・部門に期待することとは何か、企画参加にハードルを感じる要因が何かを探ります。本情報をもとに、企画の準備段階から試行錯誤を重ね、「参加したくなる企画づくり」に努めます。 b. 事前の資料提示・英語交流イベントの開催 国際系企画参加のハードルのひとつに、「英語力」があると考えています。特に日本では、化学・医療に関して、英語で学べる機会は多くないため、事前準備をすることが重要となります。他国との企画内容が決定した段階で、テーマに適した情報を収集し、英語で共有できる機会を設けます。 c. 参加後アンケートの有効活用 一般社団法人日本薬学生連盟では、基本的に企画終了後にアンケートを回答していただいています。しかし、回答数は数件程度に留まっており、回答結果をスタッフへ共有することも少ないのが現状です。アンケートの質問項目の見直しやアンケート配布方法を変更することで、回答数増加を目指すとともに、回答結果をスタッフに共有し、振り返りの質を向上させることで、より良い企画の運営を目指します。 d. 継続的な月例ミーティングによるスタッフ間の関係性構築 部員同士が継続的に関わる機会を設けることで、お互いに声をかけ合い、一緒に企画に参加しやすい環境作りを努めます。 2. 活動頻度が国際渉外統括理事のキャパシティに依存している 現在、IPSF関連の資料作成・連絡対応、英語翻訳の確認、EAAをはじめとする企画運営、Instagramの運用 (@apsjapan_international) 等のすべてを、国際渉外統括理事が主体となっていて行っています。スタッフへのタスク分散、活動提供、役割を持つことによるスタッフのモチベーション向上を目的とし、次のように部門内の組織を編成します。 a. 活動班の設置 スタッフの適正や部門に所属する目的に応じて、下記の3つに分ける予定です。なお、各班にリーダーを設置する予定です。 ○資料作成・英語翻訳班

	○企画運営班 ○Instagram運営班 b. 統括補佐の設置 IPSF、APROの窓口や外部からの国際対応を行う際に、部員全体に共有することは望ましくないが、一人で判断・実行することによりリスクや負担が大きい場合があると予想されます。その際に、独断で実行することなく、また、タスク分散ができるよう、統括補佐を設置します。 3. SNSの投稿頻度低迷 APPS in Thai land (2024) では、日本の発表後の質疑応答時に、「日本薬学生連盟のSNS投稿頻度は何故低いのか」と問われています。 国際向けアカウント(@apsjapan_international)に加え、国内向けアカウント (Instagram : @apsjapan / X : @APS_Japan)による継続的な情報発信を目指します。 a. IPSF、APROのイベント情報の発信・参加報告とInternational Daysの活用 参加者募集広報から開始し、イベント終了後には実際にイベントに参加した様子が伺えるリール動画や投稿を行います。更に、企画数に左右されないSNS投稿として、International Daysを活用する予定です。WHOにより明記されたものだけでも20個以上のInternational Daysが制定されており、部員の興味がある分野に合わせて調査を行い、それを投稿として情報発信していきます。 b. プロモーション部との協力体制構築 国際向け、国内向けアカウントでは、それぞれ視聴対象者が異なります。各部門で作成した投稿を互いに共有し、英語、日本語でそれぞれ投稿を行うことで、継続的なSNS運用を目指します。
活動計画	4月 スタッフ1on1ミーティング(2026年2月、3月から徐々に実施予定) 5月 新歓開催、統括補佐決定 6月 activity report 提出(新歓) 7月 activity report提出(他部署の活動) 8月 World Congress参加、EAA workshop前交流企画、企画①開催 9月 EAA workshop、統括補佐追加募集 10月 年会国際班活動開始、薬学生ジャンボリー参加 11月 activity report提出(薬学生ジャンボリー) 12月 企画②開催 1月 年会準備、activity report 提出(企画①、企画②) 2月 韓国・台湾年会、activity report提出(他部署の活動)、EAA workshop前交流企画 3月 年会海外参加者対応、activity report提出(年会)、EAA workshop 【通年】 ・部署内月例ミーティングの開催 ・IPSF、APROのミーティング参加、提出書類作成・提出 ・スタッフ1on1ミーティングにおける活動希望調査
所信	私が考える日本薬学生連盟の魅力のひとつに、仲間とともに視野を広げ、学びを深められることが挙げられます。これを、より発展させるために、国際渉外部が、世界と日本薬学生連盟を繋ぐ部門であるとともに、日本薬学生連盟の部署間を繋ぐ役割も担いたいと考えております。 私は3年間、副会長・会長を務め、日本薬学生連盟の全体像を見てきました。一方で、スタッフ会員からは本人が所属していない部署での活動は見えにくいのが現状です。実際に、「部署内での活動が日本薬学生連盟での活動のすべてとなっている」、「他の部署が何を行っているのか知ってみたい」という意見を複数いただいています。各部署にはそれぞれの良さがあり、どの部署でも意欲的に活動している人がいます。これらを繋ぎ、ひとつの団体として部署間でも協力し合える関係性を築いていくことでスタッフの活動の幅が広がり、会員の視野を広げ、学びを深めることに繋がると考えています。 具体例として、IPSFに提出する企画報告書であるactivity reportを利用して部署間交流を図ります。このactivity reportを作成するためには、他部署の企画に実際に参加をする、参加したメンバーから情報を得る等を行う必要があるため、必然的に他部署と関わる機会を設けることができます。更に、そこで得た情報を会員向けやSNS用にまとめて発信し、日本薬学生連盟としての活動の透明化を目指します。 このように、日本薬学生連盟の部署間をも繋ぐことができるよう努めてまいります。 元会長だからこそ得られた視点や意見も大切にしつつ、国際渉外統括理事としての活動を行う予定です。